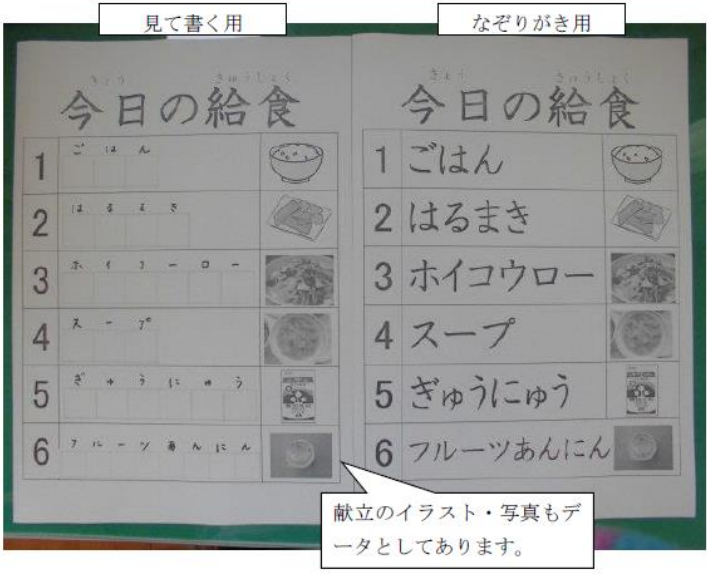


# 教材・支援機器活用実践事例

## 【好きな献立から、ひらがなやカタカナを学べるようにした指導】

	実施年度	平成29年度
授業について	教科名等	国語・日常生活の指導
	単元・題材名	今日の給食
	授業における教師のねらい	○楽しみにしている給食の献立を知り、学校生活に見通しをもつことができる。 ○メニューを確認しながら文字を書くことができる。
	授業における子どもの目標	○給食の献立を知り、学校生活に見通しをもつ。 ○献立の料理名が分かる。 ○手元の手本を見ながら、ひらがなやカタカナを書くことができる。
子どもについて	学級・学校・学年	特別支援学校（知的） 小学部 中学年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	個別指導
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○習得した知識が生活に結び付きにくい。そのため生活に結びつく具体的、実地的な内容を指導内容に位置付け、個に応じた指導を丁寧に行う必要がある。
教材・支援機器活用	使用した教材・支援機器の名称	<p>教材の写真</p> 
	活用のねらい	○好きなメニューや苦手なメニューを一つ一つ確認しながら文字を書くことで、より給食を楽しみにでき、文字の獲得にもつなげることができる。
授業における支援・教材の配慮		○文字を書くだけでなく、必ず対応したイラストや写真を示し、文字と具体物を結びつけるられるようにする。
子どもの変容や評価		○はじめは、なぞり書きで取り組んでいたが、繰り返し行うことで、お手本をマスの上に記入することで、それを見ながら文字を書くことができるようになった。 ○給食の献立を知ること、給食を楽しむことができている。